

▼ よきライバル、よき仲間 ▼

校長 阿南 孝也

ライバル“rival”の語源は、ラテン語の“rivus”、これは「小川」を意味する言葉です。さらに派生して「川を競い争っている者」「川を共同で使う者」という意味を持つ言葉にさかのぼることができるそうです。今風に言えば、「同じ釜の飯を食う者」ということなのでしょう。

洛星中学高校の6年間を有意義に過ごすために、よきライバルの存在は欠かせません。机を並べて真剣に勉学に励むこと、洛星の誇る学校行事や多種多様な課外活動に共に懸命に取り組むこと、異なる個性がぶつかり合い、時には折り合いをつけながら、目標達成に向けて汗をかき、一つのものを作り上げること、これらは、その過程において、自らの能力に気づき、磨き伸ばす貴重な機会となったことでしょう。そして得たものは、生涯の大きな財産になったと確信しています。

洛星はカトリックの学校です。宗教行事や祈りを大切にしてきました。中でも、ミサはカトリック教会が伝統的に最も大切にしてきた祈りです。洛星では、全校生徒参加のミサが、年間2回(10月21日創立記念ミサ、11月の追悼ミサ)行われています。また自由参加のミサも毎週金曜日朝、小聖堂で行われています。ミサの起源は、2千年前の「最後の晚餐」にまでさかのぼります。イエスは十字架上で亡くなる前夜、弟子たちとの最後の食事の席でご聖体を定められ、「これを私の記念として行いなさい」と言われました。ミサの中で司祭は、ご聖体となったパンを割き、信者に分け与えます。イエスは大切なものを「食事を共にする」という形で定められたのです。

仲間を表す“companion”は“com(共に)”+“panis(パン)”という意味を持つ言葉です。イエスの時代においても、現代においても、共に食卓を囲むことは、心が通じ合い、信頼し合える関係構築に繋がる大切なことなのです。大勢の生徒たちが、食堂や教室で歓談しながら昼食をとる姿を、いつも微笑ましく思ってきました。

「友はどのような時にも愛するものだ。兄弟は苦しみを分け合うために生まれる」

箴言17章17節

洛星という学び舎で、切磋琢磨しながら成長した仲間は、かけがえのない宝です。洛星で苦楽を共にしながら育まれた友情を大切に、充実した学園生活を送ってくれることを願っています。

— 前期中間考査を終えて —

定期考査は、結果が出た後の対応が大切です。授業や家庭学習に問題がなかったか振り返り、どこをどのように改善すればよいのか、具体的に考えてほしいと思います。点数にだけ目を向けるのではなく、学校生活、家庭生活全体に目を向けて、反省の機会として生かしてくれることを期待しています。